

## JICA研修・専門家派遣

### ■はじめに

日本はこれまで数多くの自然災害に見舞われています。それらを通して培われた経験と防災技術を、同様の災害が起こる世界各国と共有することは、防災先進国である日本の重要な責務と言えるでしょう。

防災科研では、発展途上国に援助を行っている国際協力機構（以下 JICA）の技術移転事業に協力することにより、研修や専門家派遣を通して防災分野での技術移転に貢献しています。

### ■ JICA 研修

JICA は、途上国の防災分野の専門家に希望を募って、2年に一度、日本での集団研修を行っています。防災科研は、この集団研修の受け入れ機関として、1999年からこれまでに、のべ14ヶ国から27人の研修生の指導を行ってきました。

研修分野は地震、火山、津波、気象、地滑りなど幅広い分野にわたっています。一回の研修期間はほぼ3ヶ月間で、研修生は JICA の筑波国際センターに滞在し、防災科研に通って個別のテーマについて研修を受けます。研修生のレベルには大きな差があり、各国の事情も異なりますので、研修生の希望に合わせた指導を行っています。また集団研修とは別に、JICA から個別に研修生の受け入れも行っています。

### ■専門家派遣

研修だけではなく、JICA が海外で行う技術移転事業のための専門家の派遣にも、防災科研は協力しています。これまでの専門家派遣としては、フィジー・トンガ・ミャンマーの地震観測、エクアドルの火山観測などがあります。現地に滞在し、関係機関の職員や研究者に対して専門的な指導を行い、技術移転を進めます。日本とは大きく環境が異なりますので、現地の事情にあった機材やソフトウェアを導入し、適切なレベルの指導を行うことが求められます。

### ■エクアドル火山プロジェクト

エクアドルの火山観測に関しては、防災科研は、JICA のプロジェクトの立ち上げ時から中心的な役割を果たしています。というのは、このプロジェクトは、2001年の JICA 集団研修で、エクアドルからの研修生を、防災科研が受け入れたことをきっかけとして始まったからです。

エクアドルにおいて、最も火山災害のリスクが大きいトゥングラワ火山とコトパキシ火山に、最新式の地震計等を設置し、火山監視能力を向上させるというのがプロジェクトの目的です。機材の設置やデータ解析技術の移転は、防災科研の研究者や技術者を中心として行われています。そしてこのプロジェクトはすでに大きな成果をあげています。



写真1 エクアドルでの火山観測機材の設置の様子  
(標高4400m!)

昨年8月にトゥングラワ火山で噴火が起こった際に、その前兆現象を設置した観測機材が捉えたことで、危険地域の住民が噴火前に避難することができました。これにより多くの人命を救うことができたのです。

### ■おわりに

私たちは、今後とも JICA との協力関係を通じて、研修や専門家派遣により防災分野での途上国への技術移転に貢献していきます。

(地震研究部 熊谷博之、  
企画部広報普及課 山越守)